

株主メモ

決算期日	毎年9月30日
定時株主総会	毎年12月
配当金受領の株主確定日	9月30日
基準日	毎年9月30日 中間配当を実施するときは3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して臨時に基準日を定めます。
公告掲載紙	日本経済新聞 決算公告につきましては貸借対照表及び損益計算書を当社ホームページに掲載しております。 http://www.cmic.co.jp/
名義書換代理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同 取 次 所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

■アンケートにご協力ください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施させていただくことといたしました。お手数ではございますが、以下の方法によるアンケートへのご協力をお願いいたします。
下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2309



携帯電話からもアクセスできます。QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、左下のQRコードからもアクセスできます。
アンケート実施期間は、本事業報告書がお手元に到着してから約2ヶ月間(2月10日まで)となりますのでお早めのご回答をお願いいたします。

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL : 03-5777-3900 MAIL : info@e-kabunushi.com
〈ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます〉

シミツク株式会社

〒141-0031 東京都品川区西五反田 7-10-4 金剛ビル
Tel 03-5745-7070 (代)
Fax 03-5745-7077
<http://www.cmic.co.jp/>



CMIC
Business Report 2005

第21期 事業報告書
2004年10月1日～2005年9月30日



当社グループは、「科学的根拠に基づいた医療（EBM）の確立に貢献する企業」を理念とし、製薬企業の医薬品開発支援と製造販売後調査及び医薬品のマーケティング支援を中心に事業を展開しております。当社グループは、今後とも医薬品開発受託機関（CRO）のコア事業を強化し、さらに製薬企業の研究から開発、製造、営業支援までをトータルにサポートする新ビジネスモデルPVC（Pharmaceutical Value Creator）を追求して、製薬企業の価値最大化に貢献する企業を目指してまいります。さらに、当社グループで培ったノウハウを活かして、ヘルスケア全般においても新たなビジネスを創生することを経営の基本方針とし、顧客への高い付加価値の創生に邁進いたします。

To Our Shareholders

株主の皆様へ

医療を通じ人々の健康に貢献するというコンセプトのもと、
医薬品開発で培った知識・ノウハウを活用し、
今後も新たなビジネスを展開してまいります。



代表取締役会長兼社長／CEO
中村 和男

株主の皆様には、日ごろより格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。医薬品業界の経営環境は、薬価引き下げ、後発医薬品の販売拡大等により、依然として厳しい状況が続いております。そのため、製薬企業は企業統合による合理化・アウトソーシングの活用による経営効率化・パイプラインの確保と業績拡大を推進している状況にあります。

こうした事業環境のもと、当社グループは引き続き国内外の顧客から新薬開発支援業務の受託拡大に努めた結果、当期の業績は、売上高14,028百万円（前期比29.9%増）、営業利益1,393百万円（同12.5%増）、経常利益1,432百万円（同16.7%増）、当期純利益619百万円（同10.1%増）となりました。

当社グループは当期、2005年4月の改正薬事法施行を契機に新たな事業環境の変化に直面している製薬企業に対し、医薬品の研究開発から販売までのバリューチェーンの全ての分野を支援する次のような体制を整えました。まず臨床試験を中心とするCRO事業においては、世界第三位のCROであるPharmaceutical Product Development, Inc.（以下PPD社）と業務提携を行い、両社の顧客を相互紹介することによりグローバルな規模で開発受託サービスを提

供する体制を整えるとともに、同一プロトコールでのグローバル試験に対応できる開発体制構築を推進しました。また医薬品産業に特化した投資ファンド「ケルティック・ファーマ」との戦略的提携では、ファンドが持つ海外開発品の日本・アジア（韓国・中国）における臨床試験を独占的に受託することにより、国際的な開発品目の受注拡大に努めております。さらに、2005年8月に医薬品製造を行う海東エスエス製薬株式会社（韓国）をグループ内に迎え、当社グループとしてはじめてCMO事業を開始いたしました。さらに製造販売後のマーケティング・販売の支援事業としては、グループ子会社3社によるマーケティングコンサルティング、販促資材企画制作、コントラクトMR（医薬情報担当者）の支援体制を整備いたしました。このように製薬企業の価値向上を総合的に支援する体制を構築することにより、今後一層の業容拡大が図られるものと期待しております。

2005年9月1日、東京証券取引所市場第二部から、第一部指定となりました。これもひとえに日ごろの株主の皆様のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

今後とも株主の皆様にご満足いただけるよう企業努力を続けてまいりますので、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Market Conditions

当期市場

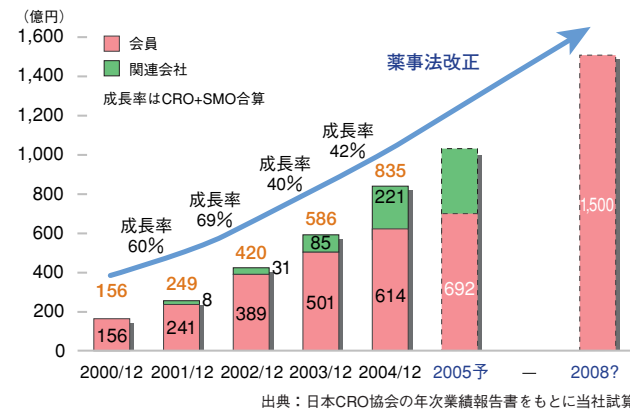
当期も、CRO市場は引き続き堅調に拡大いたしました。2004年日本CRO協会の年次業績報告書によると、2004年の会員（31社）及び関連会社（18社）の業績を集計した市場規模は835億円であり、中期的には1,500億円規模に拡大すると予測しております。

市場拡大を牽引する要素として、3つの事業環境の変化が挙げられます。まず、2005年4月に施行された改正薬事法により、医薬品の承認制度が、医薬品の販売者が医薬品に関する責任を持ついわゆる「製造販売承認制度」になりました。これによって、製薬企業が医薬品の開発のみならず製造までを積極的にアウトソーシングする傾向が高まりました。また、医師主導治験の体制整備が進み、新薬のみならず国内未承認薬に

対する治験の増加が見込まれております。さらには、ポスト・ゲノム時代に入った21世紀以降急速に進展したゲノム創薬や、新技術の開発が目覚しい再生医療は、いよいよ前臨床研究の成果が臨床応用される段階に入っております。

以上のような事業環境の変化により、CROに対するアウトソーシング、SMO（治験施設支援機関）の活用、CSO（販売支援）、CMO（製造受託）などへの需要が増えると予想されており、これら全ての機能を持つ当社グループにとっては事業拡大の大きなチャンスが到来すると期待しております。

● CRO市場の推移



● 当期のCRO市場環境の変化

製造承認から製造販売承認へ (2005年4月)

- 多様化する製薬企業モデルと外注拡大
- 創業ベンチャーの出現

新技術基盤の確立

- 細胞治療、再生治療
- ゲノム創薬・バイオマーカー

医師主導治験の体制整備

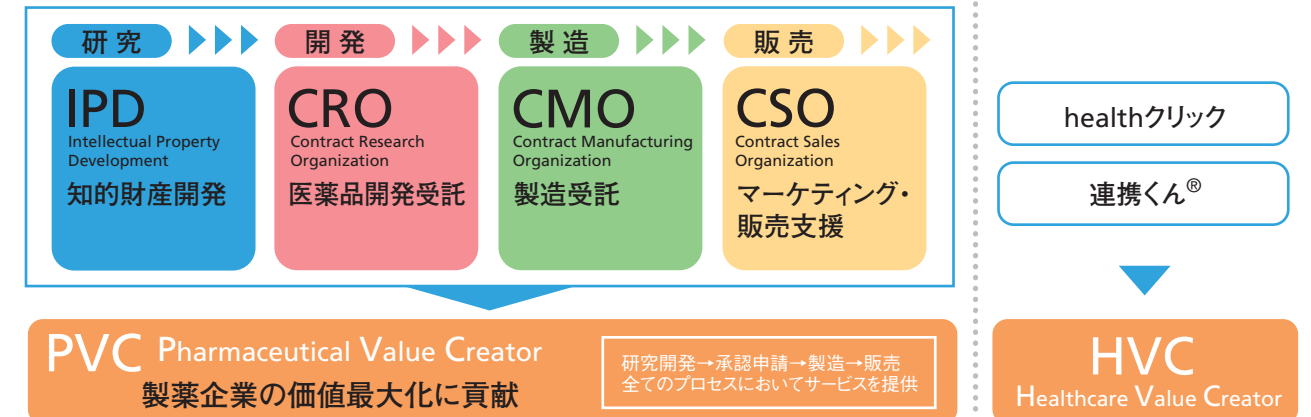
- 臨床試験の拡大
- トランスレーショナルリサーチ
- 国内未承認薬の対応

新規事業のチャンス
(CROへのアウトソーシングの増大、SMO、CSO、CMO)

Business Domains

事業領域

● ニュービジネスモデル「PVC」～広がるシミックの事業領域～



当社グループは1992年の創業以来CRO事業をコアとして、医薬品開発経験の蓄積と専門性の向上に努め、顧客のニーズに応えるべく業務領域を拡大してまいりました。そして当期、「EBMの確立に貢献する企業」の理念のもと、製薬企業の価値最大化に貢献する企業（PVC）としての体制を整えました。まず研究分野においては、IPD（知的財産開発）として2つの体外診断薬開発を進めております。また、医薬品産業に特化した米国投資ファンドとの戦略的提携を通して、新しい医薬品開発を推進しております。

医薬品の開発分野においては、CROのパイオニアとして培ったノウハウをもとに、コンサルティング機能を活かし、臨床試験のモニタリングやデータマネジメント、前臨床試験における安定性試験等の開発支援ビジネスについて、国内外の製薬企業はもとより創業ベンチャーからも、着実に業務を受

託しております。韓国・中国におけるCRO事業にいち早く取り組んできた当社グループのアジアにおけるプレゼンスは、両国の拠点を軸にますます高まることと期待しております。

製造分野においては、2005年8月「海東エスエス製薬株式会社」を買収いたしました。これによりアジアも含めた製造プランの提案とサービス提供が可能となります。

販売分野においては、マーケティングコンサルティング、販促資材企画制作、コントラクトMRの支援サービスを開始し、マーケティングに基づく販売促進活動のニーズに対応できる支援体制を拡充・強化してまいります。

また当社グループは、WEBサイト「healthクリック」の運営や病診連携支援ツール販売等、今後拡大が見込まれるヘルスケア分野のビジネスを視野に入れた業務を開始いたしました。

医薬品の開発

医薬品は、臨床試験等で有効性・安全性を検討し、審査・承認を受けてはじめて販売に至ります。

臨床試験

臨床試験とは、健康人や患者の同意を得て医療機関で実際に有効性・安全性を検討する試験です。

CRO（医薬品開発受託機関）

CROは1970年代欧米で誕生しました。日本では1992年当社が最初にビジネスを開始しました。

IPD Intellectual Property Development

当期の施策

- 体外診断薬の開発 (L-FABP, PTX3)
- ケルティック・ファーマ (Celtic Pharma) との提携

研究分野においては、IPD（知的財産開発）プロジェクトとして、開発品目の知的財産の開発を進め権利化を自社で行い、承認後には製造販売権を第三者に付与することで売上に応じたロイヤリティ収入を見込むタイプの新規ビジネスを検討しております。現在、2つのIPDプロジェクトを進めており、1つは腎疾患の悪化の度合いを予測する診断マーカーL-FABPの自社開発、他の1つはバイオベンチャーのペルセウスプロテオミクス社と共同で開発を進めている動脈硬化診断薬PTX3です。L-FABPについては研究用試薬として既に販売を開始しており、PTX3については2005年9月に行われたミラノ会議において優位性が国際的に認められ、2006年には研究用試薬として販売を予定しております。

新規事業領域の試みとして2005年9月には、医薬品産業に特化した投資ファンド「ケルティック・ファーマ」との戦略的提携を行いました。ケルティック・ファーマは、その豊富な資金を活用し臨床ステージ後期の開発品目を買収して開発を進め、承認取得後に大手製薬会社に売却して得る売却益をファンドの投資家に還元するビジネスを展開しております。当社グループはこの事業戦略においてアジアにおける臨床開発の全てを担当することにより、ケルティック・ファーマが持つ国際開発品目の事業化を推進してまいります。

CRO Contract Research Organization

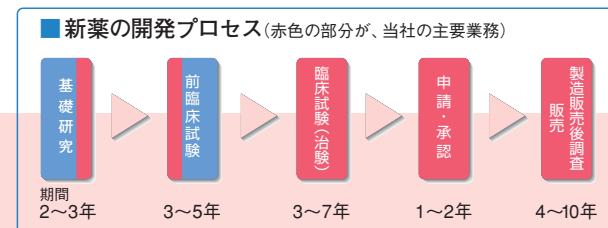
当期の施策

- グローバル対応 (PPD社との提携)
- アジアにおける事業の拡大

PPD社との提携によるグローバル対応

医薬品の開発分野においては、臨床試験を中心にモニタリング業務・データマネジメント業務・CRC業務・前臨床業務など多角的に事業を展開しております。モニタリング業務やデータマネジメント業務は、従来は臨床試験や市販後調査（製造販売後調査）の一部を受託するケースがほとんどでしたが、最近では臨床試験の規模が大型化し、臨床試験のほぼ全てを受託するケースも出てまいりました。また、日本に拠点のない海外の製薬企業では日本での開発にあたり、コンサルティングを含む全ての開発業務をCROに委託するケースも出てまいりました。

海外において、国内製薬企業が実施する臨床試験の数が増加傾向にある中、今年2月当社グループは、日本を中心としたアジア地域における実績をベースに、欧米を拠点とする世界第三位のCRO、PPD社との提



携によりグローバル規模での開発業務受託を可能とする体制を構築いたしました。例えば当社グループは海外での臨床試験を計画する日本の製薬企業に対しPPD社を紹介することができますし、日本に拠点のないPPD社が日本で臨床試験を当社グループに委託することにより、PPD社は世界規模での開発を受託することが可能になります。

アジアにおける事業の拡大

当社グループにとってPPD社との提携とともに重要な国際戦略として、アジア展開の拠点である韓国及び中国の子会社活用があります。韓国や台湾を中心としたグローバル試験が今後ますます盛んになる中、これらの拠点の役割はより重要になってきております。

韓国では1996年に韓国初のCROとしてジョイントベンチャーを立ち上げました。その後これに代わって1998年にはCMIC Korea Co., Ltd. (シミック コリア) を設立し、2000年に子会社化しました。韓国は日本に比べ開発コストが比較的安く、また比較的症例エントリーが早くデータの信頼性があるため、既にグローバル試験にも対応しております。また、日本における承認審査に必要な臨床試験データの補完データとして、韓国での臨床試験データが使用される可能性も出てまいりました。当社グループは、10年近く韓国で事業展開を行ってきたノウハウを活かし、グローバル試験、アジアスタディ（アジアでの臨床試験）など業務を拡大してまいります。

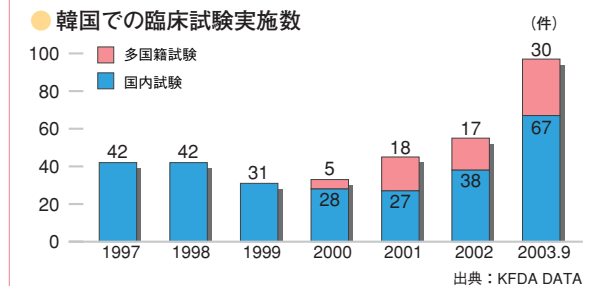
中国には2001年に、駐在員事務所としてシミックチャイナ（北京代表処）を開業いたしました。駐在員事務所では市場調査等を実施しておりましたが、日本の製薬企業の中国市場への関心が高まり、中国で臨床試験を実施することが増えてきたため、2004年100%子会社のCMIC (Beijing) Co., Ltd. を設立いたしました。これらアジアでの経験やノウハウは、日本を含む

グローバル試験に大変有利で、当社グループの受注活動に貢献するものと期待しております。

医療機器開発支援へ

日本はアメリカに次いで医薬品市場の規模が世界第二位です。医薬品だけでなく医療機器分野においても市場が拡大しており、日本進出を目指す海外製薬企業・医療機器メーカーが今後ますます増加するものと見込まれます。当社グループは、医薬品開発で培った経験を活かし、これらの企業の日本進出支援も促進してまいります。

グローバル試験の増加とシミックのアジア展開



CMIC Korea Co., Ltd.

1996年 韓国初のCRO設立 (CCI) (Joint Venture)
1998年 CMIC Korea Co., Ltd. 設立

戦略・薬事コンサルティング、臨床試験 (フェーズI~IV)、データマネジメント、製造販売後臨床試験 (PMS)

CMIC (Beijing) Co., Ltd.

2001年 CMIC China (北京代表処) 開設
2004年 CMIC (Beijing) Co., Ltd. 設立

戦略・薬事コンサルティング、臨床試験 (フェーズI~IV)、データマネジメント、製造販売後臨床試験 (PMS)

CMO Contract Manufacturing Organization

当期の施策

- 医薬品の製造受託
- アジア展開

CMO事業（医薬品の製造受託）を開始

2005年4月改正薬事法の施行に伴い、医薬品の承認許可制度が欧米と同様、「製造承認」から「製造販売承認」へと移行し、医薬品製造の全面外部委託が可能となりました。これによる製造受託の需要の拡大を予測し、2005年8月30日、韓国に製造工場を擁し、品質・コスト面で評価の高い海東エスエス製薬株式会社の株式をエスエス製薬株式会社より取得し、子会社化いたしました。

海東エスエス製薬の特長とメリット

海東エスエス製薬株式会社は、韓国において医薬品（内用液剤及び軟膏剤）の製造を行っており、技術専門性の高さとコストパフォーマンスの良さを特長としております。

同社を傘下に収めることにより、以下のようなメリットがあります。

1. 製薬企業の4つのバリューチェーンのサポート体制を構築

2. 今後拡大が期待される製造受託分野への業務領域拡大
3. 韓国で展開中のCMIC Korea co., Ltd.（シミックコリア）との相乗効果
4. 製造も含めたコンサルティング機能の強化が可能（提案型）
5. 新規顧客（日本・海外また医薬品・医薬品以外）の開拓

当社グループは、今回の海東エスエス製薬株式会社の子会社化により、製薬企業の4つのバリューチェーン（研究、開発、製造、販売）の全ての過程の支援業務が可能となりました。このように、製薬企業に対する一貫した支援体制を構築することで、国内外を問わず最適な医薬品開発プランの提案を行い、業容の拡大に努めてまいります。

- 「海東エスエス製薬株式会社（韓国）」



CSO Contract Sales Organization

当期の施策

- マーケティングコンサルティング支援
- MR派遣（コントラクトMR）
- 販促資材企画制作
- MR教育

マーケティング及び販売支援業務の展開

製造承認から製造販売承認への医薬品の承認制度の移行により、製薬企業にとって品質保証とファーマコヴィジランス（安全性情報管理）に加え、マーケティング戦略の重要性が高まっております。当社グループでは、製薬企業に総合的かつ効果的なマーケティング戦略を支援する体制を強化しております。

株式会社シミックMPSSにて、マーケティングコンサルティングを行っております。開発候補品の市場価値評価を通じて、どのようなライセンシング戦略、どのような開発戦略が製品価値を最大化できるのかを調査・予測して提案・実行いたします。また、新製品を早く市場に浸透するためのマーケティング戦略、MRの教育などのコンサルティングを展開しております。

また日本においても欧米のように戦略的な販促資材の企画制作が進んでおります。しかしながら、医薬品の領域においては医学・薬学の専門知識を持った販促資材企画制作のプロフェッショナルは少ない状況下にあります。当社グループのエムディエス株式会社は国内外の製薬企業の製品広告や販促資材の企画・制作を受託しております。

MR事業の再開と強化—シミックCPの設立

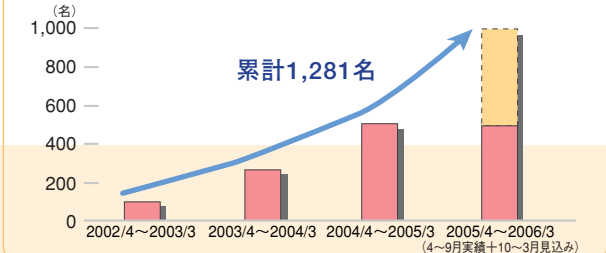
製薬企業の販売部門強化の動きとともに、日本における派遣MR（コントラクトMR）数も急速に増加しております。2004年の国内総MR数5万5千人のうちコントラクトMRは1,500人と、全体の3%程度で、欧米（アメリカ8%、イギリス25%）に比べてまだ低い割合となっております。しかし、ここ数年の日本のコントラクトMRの数は急増しており、今後もコントラクトMRの需要は拡大するものと見込まれます。当社グループは、2005年4月MR（医薬情報担当者）事業を再開いたしました。コントラクトMR事業では後発ながら、当社グループはMR教育市場の占有率が4割近くと、MR教育には高い評価を得ております。業界出身者・看護師・異業種・新卒などの人材を、教育と十分なバックアップ体制によって、クライアントに満足される質の高いMRを育成し、派遣MR（コントラクトMR）事業を今後とも強化してまいります。

コントラクトMR市場におけるシミックの強み

- ・マーケティングコンサルティング支援
- ・販促資材企画制作
- ・MR教育

シミックグループの特長である販売支援サービスによって質の高いMRを育成し、顧客満足を高めます。

- シミックのMR教育（実績）



Review of Operations

営業の概況

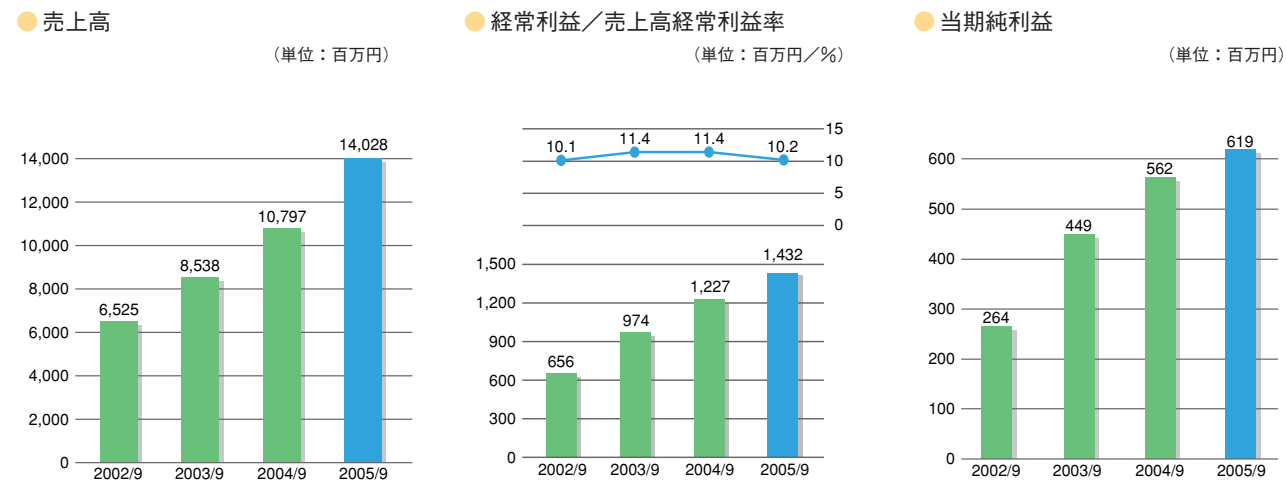
当期のわが国経済は、原油高の影響や、米国ならびに中国経済の動向等不安材料が見られる中、企業収益の改善、設備投資及び個人消費に支えられ緩やかながら景気は回復基調で推移いたしました。

医薬品業界におきましては、薬価引き下げ、国内外の製薬企業の統合、後発医薬品の販売拡大等経営環境は未だ厳しい状況で推移しております。このため、製薬企業は合理化・アウトソーシング等による経営効率化や業績拡大のための新薬の研究開発を推進している状況にあります。一方、2005年の改正薬事法の施行に伴う行政の新体制移行において、担当官の不足により一部臨床試験開始の遅延や新薬承認審査の遅れが出ており、国会でも問題化されました。

このような状況の中で、当社グループが属するCRO（医薬品開発受託機関）業界は臨床試験支援業務の受注を拡大しております。

当社グループでは、引き続き国内外の顧客から新薬開発支援業務の受託拡大に努めた結果、当期の連結業績は、売上高14,028百万円（前期比29.9%増）、営業利益1,393百万円（同12.5%増）、経常利益1,432百万円（同16.7%増）、当期純利益619百万円（同10.1%増）となりました。

連結業績



トピックス

「富士フィルム・シミック ヘルスケア株式会社」設立

シミックは、2005年9月28日富士写真フィルム株式会社（以下、富士フィルム）と、富士フィルムのライフサイエンス分野における新規事業開発を支援するジョイントベンチャーを設立いたしました。シミックの医薬品開発ノウハウや専門家ネットワークを最大限に活用して、富士フィルムのヘルスケア商品のシーズ検索から開発までをトータルにサポートいたします。加えて、国内外の企業との協業も積極的に推進し、富士フィルムの新規事業化のスピードを大幅に加速させることを目的としております。



東京証券取引所市場第一部指定及び記念配当の実施

シミックは、2005年9月1日に東京証券取引所市場第一部に指定されました。つきましては、株主の皆様へ感謝の意を込め、当期末において記念配当を実施することといたしました。普通配当68円に記念配当50円を加えて期末配当を118円とし、1株当たりの年間配当を186円といたしました。今後とも業績の拡大と企業価値の向上を目指して邁進してまいります。



healthクリック「病院検索」コーナー開設



PCN株式会社は2005年8月、同社が運営する健康ポータルサイト『healthクリック (<http://www2.health.ne.jp/>)』にて、「病院検索」コーナーを開設いたしました。この「病院検索」機能は、全国の病院・診療所の情報を、専門医や高度医療機器の有無等、様々な角度から検索することが可能です。今後はこのコーナーを通じて、『患者中心の医療』に役立つ専門医情報の拡充や診療予約機能の掲載を行う予定です。

ケルティック・ファーマ (Celtic Pharma) とCRO事業を軸に戦略的提携

シミックは2005年9月、ケルティック・ファーマと、ケルティック・ファーマの医薬品開発パイプラインの日本を含むアジアでの臨床開発について戦略的に提携する契約を締結いたしました。ケルティック・ファーマは、バミューダ、ニューヨーク及びロンドンに拠点を持つ医薬品産業に特化した投資ファンドです。この提携により、ケルティック・ファーマが持つ一連の開発品目の国内開発の受託が優先的かつ継続的に可能となり、またCRO事業を軸に、臨床開発周辺の様々な業務においても効果的に連携をとることで、開発品目の価値最大化が図れるものと期待されます。



Financial Statements

財務データ

連結貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科目	当 期 (2005年9月30日現在)	前 期 (2004年9月30日現在)
資産の部		
流動資産合計	7,747,449	7,898,233
固定資産		
有形固定資産	1,134,234	686,944
無形固定資産	1,094,111	1,049,177
投資その他の資産	1,390,446	709,957
固定資産合計	3,618,793	2,446,078
資産合計	11,366,242	10,344,312

(単位：千円)

科目	当 期 (2005年9月30日現在)	前 期 (2004年9月30日現在)
負債の部		
流動負債合計	2,213,480	1,941,209
固定負債合計	769,837	486,613
負債合計	2,983,318	2,427,823
少数株主持分		
少数株主持分	68,257	21,963
資本の部		
資本金	3,081,750	3,081,750
資本剰余金	3,326,990	3,326,990
利益剰余金	1,908,146	1,486,653
為替換算調整勘定	△2,219	△867
資本合計	8,314,667	7,894,525
負債、少数株主持分及び資本合計	11,366,242	10,344,312

連結損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	当 期 (2004年10月1日から 2005年9月30日まで)	前 期 (2003年10月1日から 2004年9月30日まで)
売上高	14,028,233	10,797,402
売上原価	9,836,442	7,548,691
売上総利益	4,191,790	3,248,710
販売費及び一般管理費	2,798,278	2,009,502
営業利益	1,393,512	1,239,207
営業外収益	56,054	15,459
営業外費用	16,673	26,733
経常利益	1,432,892	1,227,933
特別利益	—	497
特別損失	160,332	121,802
税金等調整前当期純利益	1,272,559	1,106,628
法人税、住民税及び事業税	774,647	632,883
法人税等調整額	△96,648	△89,019
少数株主利益	—	511
少数株主損失	24,742	—
当期純利益	619,302	562,253

連結剰余金計算書

(単位：千円)

科目	当 期 (2004年10月1日から 2005年9月30日まで)	前 期 (2003年10月1日から 2004年9月30日まで)
(資本剰余金の部)		
資本剰余金期首残高	3,326,990	1,461,370
資本剰余金増加高	—	1,865,620
増資による新株の発行	—	1,865,620
資本剰余金期末残高	3,326,990	3,326,990
(利益剰余金の部)		
利益剰余金期首残高	1,486,653	1,066,294
利益剰余金増加高	619,302	562,253
当期純利益	619,302	562,253
利益剰余金減少高	197,809	141,894
利益剰余金期末残高	1,908,146	1,486,653

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	当 期 (2004年10月1日から 2005年9月30日まで)	前 期 (2003年10月1日から 2004年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	364,011	314,317
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,339,368	△1,692,647
財務活動によるキャッシュ・フロー	△109,871	3,294,142
現金及び現金同等物の期末残高	3,339,007	4,421,454

Point 1

投資活動の活発化

- ・ 投資有価証券の取得
- ・ 海東エスエス製薬の株式を90%取得
- ・ 応用医学研究所の設備投資
- ・ 無形固定資産の取得
 - ・ healthクリック
 - ・ 「連携くん®」

Point 2

増収増益を継続

- 売上高は前期比30%増
- 経常利益は前期比17%増

Point 3

売上高への寄与

- ・ モニター派遣関連業務
1,364百万円 (前期比46%増)
- ・ 前臨床業務
1,203百万円

個別貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科目	当 期 (2005年9月30日現在)	前 期 (2004年9月30日現在)
資産の部		
流動資産	5,559,010	6,373,348
固定資産	4,180,681	2,999,449
資産合計	9,739,692	9,372,797
負債の部		
流動負債	1,154,349	1,220,937
固定負債	233,790	174,057
負債合計	1,388,139	1,394,995
資本の部		
資本金	3,081,750	3,081,750
資本剰余金	3,326,990	3,326,990
利益剰余金	1,942,812	1,569,062
資本合計	8,351,552	7,977,802
負債・資本合計	9,739,692	9,372,797

個別損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	当 期 (2004年10月1日から 2005年9月30日まで)	前 期 (2003年10月1日から 2004年9月30日まで)
売上高	8,168,917	7,489,322
売上原価	5,721,500	5,246,748
売上総利益	2,447,416	2,242,573
販売費及び一般管理費	1,466,834	1,175,196
営業利益	980,582	1,067,376
営業外収益	101,402	43,269
営業外費用	6	26,747
経常利益	1,081,979	1,083,899
特別利益	—	497
特別損失	115,410	110,406
税引前当期純利益	966,568	973,990
法人税、住民税及び事業税	448,561	486,866
法人税等調整額	△33,552	△43,772
当期純利益	551,559	530,896
前期繰越利益	334,865	269,534
中間配当額	51,312	39,068
当期末処分利益	835,112	761,362

利益処分

(単位：千円)

科目	当 期 (株主総会承認日 2005.12.16)	前 期 (株主総会承認日 2004.12.17)
当期末処分利益	835,112	761,362
利益処分額	435,042	426,496
配当金	89,042	81,496
取締役賞与金	46,000	45,000
任意積立金		
別途積立金	300,000	300,000
次期繰越利益	400,069	334,865

会社概要 (2005年9月30日現在)

商 号	シミック株式会社	
設 立	1985年	
資 本 金	3,081,750千円	
本 社 所 在 地	〒141-0031 東京都品川区西五反田7-10-4 金剛ビル	
従 業 員 数	1,503名(連結)	
事 業 所	北海道支社 東北支社 北陸支社 名古屋支社 大阪支社 中国支社 九州支社	
グループ会社 (連結子会社)	(株)シミックADC (株)シミックBS (株)シミックCP シミックCRC(株) (株)シミックMPSS エムディエス(株)	PCN(株) (株)応用医学研究所 CMIC Korea Co., Ltd. 海東エスエス製薬(株) CMIC (Beijing) Co., Ltd.
持分法適用関連会社	富士フィルム・シミック ヘルスケア(株)	

株式の状況 (2005年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数2,300,000株
 発行済株式総数754,600株
 株主数6,620名

大株主

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社アルテミス	315,010	41.7
中 村 和 男	57,920	7.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	46,640	6.1
資産管理サービス信託銀行株式会社	21,100	2.7
みずほキャピタル株式会社	17,600	2.3
シミック従業員持株会	13,390	1.7
中 村 圭 子	7,020	0.9
市 川 宏 司	7,000	0.9
野村信託銀行株式会社	5,770	0.7
ノーザントラスト(ガンジー)リミテッドクライアントアカウントレジスター	4,060	0.5

(注) 1. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下2位を切り捨てております。

2. 上記株主の所有株式数のうち、信託業務にかかる株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	46,640株
資産管理サービス信託銀行株式会社	21,100株
野村信託銀行株式会社	5,770株

役員 (2005年12月16日現在)

代表取締役会長兼社長	中 村 和 男
代表取締役副社長	中 村 紘
取締役副社長	市 川 宏 司
取締役副社長	中 村 圭 子
取 締 役	小 作 寛
取 締 役	佐 藤 誠
取 締 役	堀 井 宏 晃
取 締 役 (社 外)	原 護
監 査 役 (常 勤)	中 野 信 介
監 査 役 (非 常 勤)	酒 井 繁
監 査 役 (非 常 勤)	種 房 俊 二
監 査 役 (非 常 勤)	古 庄 隆 史

所有者別の構成比(株式数比率)

